

ヤングアダルトとは、12~18歳くらいのみなさんのことです



This theme is..

remind

今回のテーマは「remind (リマインド)」。

思い出させる、気づかせるなどの意味があります。

懐かしい時代、大切な出来事、あの時の気持ち…

今回は、そんな何かを思い出させてくれるような本を紹介します。

1 『わたしの町は戦場になった シリア内戦下を生き延びた少女の四年間』

ミリアム・ラウィック、フィリップ・ロブジョワ／著 大林 薫／訳 東京創元社

自分が住んでいる町が戦場になる…現代の日本に住んでいる私達には想像出来ないかもしれません。しかし世界には、今この時も戦争の中を生き延びている子どもたちがいます。この本は、シリア内戦によって住む場所を奪われた 13 歳の女の子の日記です。平和な日常から一転、近所で爆撃や銃声が聞こえ、戦争というものがすぐ近くにある生活。ありのままの現実が書かれた一冊です。

2 『大人になったらしたい仕事 2』 朝日中高生新聞編集部／編 朝日学生新聞社

自分の「好き」を仕事にした 35 人の先輩のインタビューをまとめた 1 冊。歴史が好き、人を楽しませるのが好き…皆さんにもそれぞれ「好き」があるかと思います。今は「好き」がないという人も大丈夫、この本には大人になってから「好き」を見つけた先輩もいます。自分の「好き」をどのように「仕事」に結びつけたのか、先輩たちの姿を見てみましょう。きっと将来を考えるきっかけになるはずです。

3 『ナイスキャッチ! 4』 横沢 彰／作 新日本出版社

雪が降るようになって、体育館で野球部の朝練を始めるようになった哲平とところ。そこにところが美術部だった頃の先輩がたびたび現れるようになりました。先輩は、ボールを握った哲平の手をモチーフに、^{そぞろ}塑像を作っていたのです。一方、球の不調にいら立つ哲平にところは我慢できず、練習試合中にケンカをしてしまいます。そんな中、先輩の塑像が市の美術展で展示されて…。

Pick up!

『時穴みみか』
藤野 千夜／著 講談社

主人公の美々加は十二歳の小学六年生。バツイチ独身の母親と一緒に暮らしています。母親には恋人がいて、その人と仲が悪いわけではないけれど、家に来られるとちょっと不満。そんな気持ちから、学校が終わるとよく寄り道をしていました。

そんな寄り道をしていたある日、一匹の黒猫に出会います。ついて来い、と誘っているように見えたその猫を追いかけていくと…そこはなんと昭和四十九年。美々加は「小岩井さら」という十歳の女の子になっていました。振り子時計、水銀の体温計、ダイヤル式電話、平成生まれの美々加にとって見たことのないものばかり。知らない物や家族に囲まれ、とにかく帰りたいう心で脱出を図ります。一度は平成時代に帰れたものの、また昭和時代に戻ってしまった美々加は、しばらく昭和で小岩井さらとして過ごすことに。そして最後の日がやってきます…。

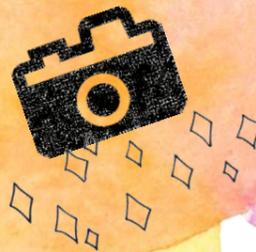
どこか懐かしく、暖かい昭和の空気が伝わってくるお話です。不思議で優しいタイムスリップを体験してみませんか？



長岡市立地域図書館 (7館)

- 互尊文庫 〒940-0065 坂之上町 3-1-20 TEL35-7981 FAX35-7982
 - 西地域図書館 〒940-2105 緑町 3-55-41 TEL27-4900 FAX27-4901
 - 南地域図書館 〒940-1103 曲新町 566-7 TEL30-3501 FAX30-3505
 - 北地域図書館 〒940-0876 新保町 1399-3 TEL22-7100 FAX22-7105
 - 中之島地域図書館 〒954-0124 中之島 3807-3 中之島文化センター内 TEL61-2165 FAX66-1003
 - 寺泊地域図書館 〒940-2502 寺泊磯町 7411-14 寺泊文化センター内 TEL75-5159 FAX75-3109
 - 栃尾地域図書館 〒940-0222 中央公園 1-36 栃尾文化センター内 TEL53-3005 FAX86-5868
- メールアドレス lib.kita@nscs-net.ne.jp
図書館ホームページ <https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp>
★お問い合わせは北地域図書館へ





REMININD

思い出させる、気づかせる

大好きだったはずなのに、その人の顔も声も思い出すことができない…そんな経験をしたことはありませんか？

この小説は、かけがえのない存在だった彼女のことを「知って」いても「思い出す」ことができない主人公・タカシのモノログから始まります。彼女はなぜいなくなってしまったのか？なぜ彼女のことを忘れていってしまうのか…？消えゆく記憶を記録として必死にとどめようとする主人公の姿に胸が熱くなる一冊です。

『忘れないと誓ったぼくがいた』
平山 瑞穂／著 新潮社



お母さんから家事も勉強もちゃんとするようにと言われている陽菜子は小学6年生。お兄ちゃんは忙しいから、家事はしなくていいらしい…。納得できない気持ちを抱えていた陽菜子はある日、「わるい親は、子どもを見ていない。見ている、外がわだけだ。心は見えていない。」と書かれた手帳を拾います。まるで自分が書いた文章のようで驚いていると、目の前にスージーと名乗る女の子が現れて—。

拾った手帳と不思議な女の子は、陽菜子を思いもよらぬ過去へと導いていきます。心のモヤモヤをうまく言葉に出来ない女の子たちの物語を読んでみてください。

『いいたいことがあります!』
魚住 直子／著 偕成社



カルタとして誰もが知っている「百人一首」は、藤原定家という歌人によって編まれた一人一首の和歌です。

詩人で作家である著者が、百首すべてに訳詩をつけ、和歌の楽しさや魅力を伝えた一冊。漫画や映画で一躍有名になった「ちはやぶる 神代も聞かず 竜田川 からくれなゐに 水くくるとは」もちろん紹介されています。恋心の詰まった和歌は現代人も共感できると思います。

『ときめき百人一首』
小池 昌代／著 河出書房新社



ひまわり、コスモス、椿、桜の花をキーワードに4つの短編が収められています。その中の「椿の葉に雪の積もる音がする」をご紹介します。

ある日突然、主人公・雁子の祖父が“思い出の人”になってしまう事を切なく綴った物語。「ポケモン」を「バケモン」と勘違いしてしまう祖父は、蜂の雪、八重姫、京牡丹など、椿の花の種類に詳しいひとでした。雁子と祖父との会話から家族のつながりを感じます。

祖父が他界した喪失感、どうしたらよいのかわからないという雁子の心情が痛いほど伝わってきます。ほかの短編もおすすめです。

『花が咲く頃いた君と』
豊島 ミホ／著 双葉社



中学校の文集『学園の丘 昭和三十五年』を見つけたことをきっかけに、小説家の章子は50年前の14歳の自分を思い出します。友達と毎日楽しい学校生活を送っていた14歳の章子ですが、好きな人ができたことで、その楽しい日々が少しずつ変化していきます。

時代は違えども、現代の子と同じように親や友人との関係に悩みながら成長していく女の子たちの青春物語。

『14歳のノクターン』
さとう まきこ／著 ポプラ社

例えば「かわいい!」と思ってスマホで撮ったあと、皆さんはその画像をどうしていますか？保存したままか、あるいはSNS?そんな時は、印刷して、切って、貼って、書いて、かさばるけど「スクラップ帖」はいかがでしょう。

スクラップとは、新聞や雑誌の記事を切り抜くことを意味しますが、この本の「スクラップ帖」とは買った服のタグまでスクラップします。貼るものに制限はなく、日々のちょっとしたことを絵日記感覚で書いたり、旅行ガイドを自作したり、自分が残したいと思えばどんな内容もOKなのです。

SNSは人に見せることが前提ですが、ノートは自分だけの思い出として残せます。後で見返した時に、手書きの文字が表す気持ちや、貼ってあるものの手触りがあるのもスクラップ帖の魅力ではないでしょうか。

『スクラップ帖のつくりかた』
杉浦 さやか／著 KKベストセラーズ

